

新学部長 就任の言葉

TOPICS 02

(2019.10.1付就任)



理学部第一部 学部長
坂田 英明
HIDEAKI SAKATA

東京理科大学で最も歴史のある学部の一つである理学部第一部では、さまざまな自然現象の本質を理解し、その裏側に潜む未知の法則、原理を解明するという理学の目標のために、脈々と積み上げられた基礎研究から世界に誇るべき研究成果が生み出されてきました。さらに、本学創設以来の実力主義の伝統のもと、さまざまな分野で活躍する多くの優秀な人材を輩出してきました。また、理学は、自然科学の探求だけでなく、さまざまな工学の基礎でもあり、最近では、量子コンピューターのように、理学における基礎的な研究が新しいパラダイムを生み出し、直接、最新のテクノロジーにつながっていく例もあります。このような理学の広がりには、これまで培ってきた専門領域だけではなく、広く学際的な視野が大事です。好奇心に従い自由に研究できる環境の整備とともに、新しい学際的な分野を開拓できるような環境の整備、および幅広い教養を有して世界で活躍できる魅力ある人材の育成が可能な存在感のある理学部第一部の実現に向けて、学部長として全力で取り組んでまいります。

新副学長紹介

TOPICS 01

(2020.1.1付就任)

昨今、AIという言葉が耳目にふれない日はありません。それは人類に多くの恩恵を与つつも新しい課題を投げかけます。大学の使命は、自由を尊び、持続的に新しい知恵を生みながら人材育成を通じて社会的課題に挑戦していくことです。世界の理科大を目指す本学のさらなる発展に貢献すべく、最大限の努力をしていく所存です。



副学長
若山 正人
データサイエンス教育・
研究推進、国際化推進(副)
●機構(研究推進)
データサイエンスセンター

小林恭一教授が瑞宝中綬章を受章

TOPICS 03

11月3日、秋の叙勲が発表され、本学研究推進機構 総合研究院 火災科学研究センターの小林恭一教授が瑞宝中綬章を受章しました。小林教授は火災安全工学を専門とし、現在総合研究院火災科学研究センターの教授を務められる一方、本学大学院で火災科学専攻の講義を開講しています。受賞に際し小林教授は「このたび、はからずも叙勲の栄に浴することになり、消防防災、火災研究など地道に社会を支える分野にお目配り頂いたものと、嬉しく思っています。今後も、若い人たちを助け、社会の安全に資するよう微力を尽くしていきたいと考えています」と話されました。



東京大学工学部建築学科卒業。1973年に建設省に入省。その後自治省消防庁に移籍。火災予防行政を担当。2006年総務省退官。2008年に東京大学工学部で博士号を取得。同年10月から東京理科大学GCOE(先導的・火災安全工学の東アジア教育研究拠点)教授。2012年より東京理科大学大学院国際火災科学研究科教授。

東京理科大学名誉教授称号授与

TOPICS 04

本学は、長年にわたり本学の教育・研究の発展に尽力し、多くの功績を挙げた先生方に対し2019年10月3日付けで1名、同年11月14日付けで5名、名誉教授の称号を授与しました。



太原 育夫 先生

1979年に理工学部情報科学科助手として着任し、学科主任等を務めたほか、情報教育センター長、キャリア支援センター長を歴任し、本学の教育、研究、大学運営に多大な貢献をした。専門は人工知能に関する研究で、人間の高次な情報処理機能である推論のモデル化と形式化に関する研究や大規模知識情報源の利用に関する研究等で、その貢献は理論、アルゴリズム、アプリケーションの多方面にわたっている。(10月3日付)



武田 正之 先生

1982年に理工学部情報科学科助手として着任し、2004年に教授となり、学科主任、情報倫理委員会、個人情報保護委員会、情報教育センター長などの要職を歴任し、大学の教育、運営に尽力した。専門はソフトウェア工学、ネットワーク工学で、情報処理学会論文賞を受賞したほか、TANPAKUプロジェクトの立ち上げやネットワークサービスモデルの研究で特許を取得した。(11月14日付)



太田 宏平 先生

2001年に理学部第一部教養学科教授として着任し、在職中は教授、校医、産業医の複数の職に就き、学生や教職員の健康管理等に係る業務に従事した。また、2009年には学校法人保健管理センター長に就任し、その管理運営にも尽力した。専門は脳神経内科学で、新発見がNature誌、Science誌に掲載されるとともに、作成委員として日本神経学会多発性硬化症治療ガイドラインを公表し、難病の診療向上に寄与した。(11月14日付)



伊東 晋 先生

1981年に理工学部電気工学科助手として着任し、1998年に教授となり、研究科幹事、就職幹事等を務めるなど本学の研究教育の推進に貢献をした。専門は、画像の高効率符号化を中心に、映像処理、放送技術など多岐にわたり、映像情報メディア学会論文賞など多数受賞。同学会会長や総務省情報通信審議会会長代理を歴任し、それらの功績から電波の日経総務大臣表彰、日本放送協会放送文化賞も受賞している。(11月14日付)



本間 芳和 先生

2004年に理学部第一部物理学科の教授として着任し、学科主任、研究科幹事、大学図書館長、総合研究院副院長などを歴任、大学の運営に多大な貢献をした。専門は表面物理学・結晶成長物理学で、特に走査電子顕微鏡を用いた半導体結晶表面の成長過程のその場観察で独自の分野を開拓し、カーボンナノチューブやグラフェンなどナノカーボンの研究に注力した。これらの業績により、日本顕微鏡学会賞、日本表面科学学会賞などを受賞している。(11月14日付)



小川 正賢 先生

2009年に大学院科学教育研究科の教授として着任し、研究科長を務めるなど、大学院の教育、研究及び大学院運営に多大な貢献をした。専門は科学教育研究分野で、東アジア科学教育学会国際会議を本学で主催する際にも中心的な役割を果たし、科学教育研究における本学知名度を上げた他、さまざまな組織における審査委員や評価委員を務めるなど、国内外で科学教育研究の啓発と普及に尽力した。また、日本科学教育学会大塚賞などを受賞している。(11月14日付)